



































































立山立山山と仰き奉り稱へ
御前に長サ惶みも白さく
天晴天晴所交所交文に畏き立山は雄山の大神の神鏡
傳の影現し給ふ靈山なり 惟惟み水は千早振る遠
丑の年越中国司佐伯宿禰有若公の姉男姉男有
以て始めて登り神の靈天を宣宣す文武天白
國東鎮護衆生清度の大靈場を造り給ふ
名告うと給ひ自ら立山の座を造り給ふ
州に立山の由縁を伝へ給ひし天平宝字三年八
の神奈備なる一水西に廻りて三基の草の萌萌え出出る
惜惜む人々に乃湯草の草草母に風風落落すて廿段
給ひ論し給ひて土の底より鐘の音の聞ゆること七日
寶實に天平宝字三年六月十三日の日に有けり其
長きに亘り山よりも高き大稜威を仰き海原より
心の在り頼頼チ教の祖と慕慕ひ奉りて拍手の音
こかりけり中にも弥生の月の十三日の日ともなり
山里の春春を尋尋み奉るを古き往古より一
して今年も松に甘岬婦人会の美しき
け奉るほ黒鐵塔す夏の日を心心鎌に甘
と定定め手弱女か弱肩に綾袴あ
妙の布布と和妙の料料と成成定定の海山の
けしと喜喜ひ祝祝ひ奉るを平平けくは女女り聞聞合
日本の御国の事事も聖聖若常若常磐磐に守守給給ひ
事なく浅浅まる事なく恵恵み幸幸ひ給給ひて
た田た田の事事も身身の患患ひ病病めるを助け

















































